## ２－１　多世代交流の仕組みづくり事業　　広報へ脳トレーニングの掲載

現在、新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点より寄茶場等の多世代交流が実施できていない現状です。

お家で過ごす時間が多くなってきている住民の方に三育学院大学の学生が何かできないかと考え、間違い探し（脳トレーニング）を作成しました。脳トレーニングを通して、学生と高齢者の交流やお家で過ごしている高齢者と子ども達が一緒に実施して交流して欲しいなど学生の思いの詰まった脳トレーニングになっています。

学生が作成した脳トレーニングは住民からも好評の声を頂いており、次を待ち遠しくしている方もいました。

今後も学生による手作り脳トレーニングを定期的に広報で掲載していく予定です。

▲学生が作成した間違い探し（脳トレーニング）

▲脳トレーニングを作成した三育学院大学学生

## ２－２　多世代交流の仕組みづくり事業　　正しい手洗いのやり方について

１０月９日（金）、１０月１５日（木）に、三育学院大学の学生が多世代交流の仕組みづくり事業を「交流サロンかぐや」にて実施しました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の感染予防の１つでもある「手洗い」について、正しい方法を８名の地域住民に実施しました。

▲血圧測定について、学生と住民が話す様子

▲正しい手洗い方法が記載された手作りチラシ

新型コロナウイルス感染拡大の最中でも感染対策を講じながら、地域住民（多世代）と関わりを持てないか、学生が考え実施しました。

参加した住民は、体温測定や血圧測定を行い、自分自身の健康状態などを学生と振り返りました。そして、感染対策である「手洗い」の正しい方法の説明を学生から受け、実際に　手洗いを行い、手洗い後は、正しく洗えているかチェックできる手洗いチェッカーで確認しました。洗い残しが思ったより多く、住民より驚きの声があがりました。

また、住民が昔の町の様子や普段の暮らしぶりを学生に伝えるひとコマもあり、学生にとって町が身近になり、住民と学生がお互いに楽しく学びながら過ごす時間となりました。

新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点より今までのように沢山人が集まり、多世代交流を実施することが出来なくなっている中で、感染対策を取りながら、学生と地域住民による多世代交流が図られました。

今後も感染対策を徹底しながら、三育学院大学と協働し、多世代交流を実施してまいります。

▲学生より正しい手洗いについて教わる様子

## ２－３　多世代交流の仕組みづくり事業　　防災について

１１月２０日（金）に三育学院大学の学生と協働で多世代交流の仕組みづくり事業を実施しました。

今回は、「防災」をテーマに防災の基本的な講話と非常用持ち出し用品の確認を８名の高齢者と一緒に実施しました。

▲総務課防災総合対策班職員による平常時の備えの講話

▲学生による非常持ち出し用品の講話

ここ数年、台風や大雨の影響により千葉県内でも多数の地域が自然災害の被害にあっています。その中で、平常時から備えておくことについて、学生と教員、町総務課防災総合対策班職員と協働で、非常用持ち出し用品について、クイズや実際の物品を目で確かめることを実施しました。

参加した高齢者は、「備えてない持ち出し用品があり、勉強になった。」「思ったよりも持ち出し用品が重く、足腰が丈夫じゃないと持ち出せないことが分かった。」など学生と談笑しながら学びました。また、実際に阪神・淡路大震災を経験している高齢者から貴重なお話を伺い、平常時からの備えが重要であることをより実感しました。

今回も新型コロナウイルス感染症の感染対策を取りながら人数を制限して実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、普段より住民同士の交流が難しく　なっている中で、高齢者と学生の交流を通していきいきと過ごすことができました。

今後は、新型コロナウイルス感染症の動向を確認しながら、地域の高齢者と子どもたちの多世代交流が実施できるように三育学院大学と協働していきます。

▲非常用持ち出し用品についてグループで話し合う様子

## ２－４　多世代交流の仕組みづくり事業　　オリーブの葉で染物体験

３月２６日（金）に三育学院大学と協働で多世代交流の仕組みづくり事業を実施しました。

今回は、交流サロンかぐやで「オリーブで染色体験」をテーマに高齢者と小学校５・６年生１１名が交流しながらオリジナルハンカチを作成しました。

▲参加者がオリジナルの模様を作っている様子

▲絞り方を教わる姿

三育学院大学の教職員と学生の協力によりオリーブの葉を染料とした２種類のハンカチを作成しました。

参加者は、輪ゴムやビー玉、ペットボトルのキャップを使ってハンカチを絞り、オリジナルの模様を作りました。ハンカチを絞る際に高齢者が小学生に絞り方を教えるなどとても微笑ましい姿も見られました。

また、煮染めしている時間を活用し、一緒にけん玉やお手玉などの昔遊びを行ったり、給食の話で盛り上がったり、多世代交流をとても楽しんでいました。

今回も新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底し、実施しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により自粛生活が続く中、普段できない染め出し体験や多世代交流を出来たことが参加者にとって、良い思い出になりました。

今後も新型コロナウイルス感染症の動向を確認しながら、少ない人数でも地域の高齢者と子どもたちの多世代交流が実施できるように三育学院大学と協働していきます。

▲参加者全員でオリジナルハンカチと一緒に撮影

３　特産品の開発事業　　特産品開発及び産品開発・交流拠点施設の運用

【オリーブ等を活用した特産品開発】

今までとおりオリーブ栽培は、時間を要するため、定期的な講習会等の開催が求められますが、新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から開催を中止（延期）いたしました。

▲オリーブの苗木育て方 DVD

ただし、オリーブ購入者からは、苗木の育成状況や栽培における問題点、工夫など問い合わせが多いことから、講師と相談し、生育の仕方マニュアルと講師実践 DVD を作成し、購入者に配布をしています。コロナの終息やワクチン接種が進み講師を迎えられれば、品評会や勉強会などを行いたいと考えています。

なお、オリーブも３年目ですので生育状態や６次産業化にできるのか？或いは、観賞用とした楽しみながら育てる植物「にぎわいの創出」にするのか？検証を行いたいと考えています。

【御宿町産品開発及び交流拠点施設の運用】

内装の改修やテーブル、イスなどの必要備品の整備並び施設改修を終え、産品開発及び交流拠点の実施と計画していましたが、新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から、なかなか施設の利用と実施には至りませんでした。

▲産品開発及び交流拠点施設の利用風景

その中で、新型コロナウイルス対策を講じ、農業者から要望が上がった新たに取り組む食用菜花やレモンの植栽に関する講習会（農業事務所、町、農業委員、営農者等）１５名で実施いたしました。

更なる施設を活用した事業の実施には至りませんでしたが、施設の活用方針や新型コロナウイルス対策を充実させ引き続き、地元食材、産品を活用し特産品の開発や新メニューの開発に向けた研修会等を行う拠点として、また、地域情報の発信、多目的町のラウンジ、交流の場としての活用を目指します。その他施設の利用として、町外にも発信し、起業したい方など様々な活用を図っていきます。

▲食用菜花の種まき実践風景

４　移住交流促進事業　　特色ある教育プログラム事業

令和２年度は、新型コロナ感染症対策として長期の学校臨時休業が行われたことによる学習の遅れ、受験への不安を解消するために中学３年生に対象をしぼり週末学習塾を行いました。前年度も行っていた英語と数学に理科を加えた３教科を、少人数のグループに分けて指導し、主体的な学習のやり方を身に付けさせ、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図りました。入試前には過去の入試問題の演習・解説や英語のリスニング、新たに加わった国語の聞き取りも実施しました。参加者の出席率も高く、休憩時間に講師に質問する生徒もいました。